

平成30年度第5回土地利用景観調整審査会 会議録

1 開催年月日 平成31年3月27日(水) 午後3時30分開会
午後4時20分閉会

2 出席委員 宇野健一
桑田仁
田中友章
谷垣岳人
野澤康
欠席委員 加藤幸枝
三輪律江
(五十音順、敬称略)

3 傍聴者 2名

4 議事日程

(1) 日程第1

第1号議案 土地利用構想 平成30年度 第1号議案
(武蔵台二丁目地内 東京都知事)

第2号議案 景観構想 平成30年度 第2号議案
(武蔵台二丁目地内 東京都知事)

(2) 日程第2

その他

5 議事

(1) 日程第1

ア 事務局および事業者からの説明

土地利用構想平成30年度第1号議案、景観構想平成30年度第2号議案(武蔵台二丁目地内 東京都知事)について、配布資料に基づき説明。

イ 審議の概要

【委員】 緑地帯の形状等について3点ほど質問する。1つ目は、立体駐車場の東側の車道とタクシープールの間にある緑地帯の位置はここが最適なのか。また、歩道と車道の間には安全性のために、フェンスやガードレールがあるのか。タクシープールと車道の間にある緑地帯を歩道と車道の間において、車道とタクシープールが直接隣接するような形状にすると、緑地帯を安全確保に使える余地が出てくるので、より良い組み合わせになるのではないか。

2つ目は、一番東にあるまとまった緑地帯について、縁石を高くし、雨水貯留機能を持たせることを前向きに検討して

いただくと良い。このようにまとまった緑地であれば、30センチ程度の、人が少し腰掛けられる位の高さの縁石でも雨水貯留ができるので、ピークアウトが効果的ではないかと思う。

3番目は、バスロータリーで回転ができることは了解した。今回の事業区域内では合理的な答えであるが、今後の建築計画を含めて合理的な選択肢を考えるのであれば、今回の事業領域に含まれない、高圧鉄塔周りの形状を見直すタイミングがあれば、そこを一緒に考えることで、より合理的なバスの回転形状が得られ、バスの回転形状に囲まれる部分として、一番東側にあった緑地帯と同じ雨水貯留機能が付いた、まとまった緑地ができる可能性がある。その辺りを将来計画の余地として検討いただくと良い。将来増設されるかもしれない緑地帯や、増設されるかもしれない駐車場部分というのが出てくると思うので、そういうのを前倒しして計画していくことによって、最終的な計画との整合性が高まる。あるいは、今回の工事が暫定整備的な性格を持つのであれば、そこに過剰な資源を投入しないとか、段階的に整備をしていく視点を持つことができるのではないか。

【事務局】 タクシー乗場周りに柵等を設ける予定は無かったので、検討させていただきたい。

【委員】 既存フェンスを撤去するが、歩行者が危ないという苦情で、同じようなフェンスが設置されたら意味がない。苦情が来ることをあらかじめ想定した上で緑地帯の形状を考え、撤去する既存フェンスと同じにならないように、あらかじめポラードを設置するなどの検討をしていただきたい。

【事務局】 いただいた意見を基に歩行者の安全対策等には十分配慮して計画したい。

【委員】 雨水貯留機能と、隣の敷地の計画との整合性についても、協議段階で少し入れたほうがいいので、検討いただきたい。

【事務局】 いただいた意見を東京都に伝え、事前協議の中で調整していきたい。

【委員】 樹種の件で、ソヨゴという樹種を駐車場の周りに植えるが、緑地計画として国分寺崖線との樹種の整合性とあるが、そこについて教えていただきたい。ソヨゴは国分寺崖線の樹種として見られる樹種と考えてよろしいのか。

【事務局】 ソヨゴは国分寺崖線にはない樹種であるが、病院内の既存の樹種としてはあるので、既存の病院内の樹種との調和というかたちで、排気ガスや害虫などに強い樹種を選定している。

【委員】 日影や排ガスに強いことは大事であるが、武蔵野の緑の中にもなじむ樹種があれば検討を加えてもらいたい。ソヨゴが

駄目だというわけではないが、もう一回候補を考えていただきたい。

- 【委員】 ソヨゴ単植をずらっと並べるイメージであれば、病院前の風景として残念である。国分寺崖線との連続性とは、おそらく雑木である。ソヨゴもあるといいが、プラス雑木を植えていただきたい。考え方としては、単植よりは混植と思う。春は芽吹きの見られる樹種や花の咲く樹種など、病院に来られる人がそこから何か感じられるような雑木があったほうがいいので、検討していただきたい。
- 【事務局】 植栽については再度、日影に強いだけでなく、国分寺崖線との調和を考えた植栽にするよう協議していきたい。
- 【委員】 長さがあるので、1種類では単調である。低木との関係もあるので、上手く調整していただきたい。
- 【委員】 色彩と素材について、色彩を変更するが、欠席の委員から意見等はいただいているか。もう一つは、駐車場と既存建物の断面を書いているが、新しくできる歩行者用の歩道のドームの屋根、庇が、どのような空間になるかは想像できるが、軒天の部分の色彩や素材は重要な要素になるが、何か情報があるか。
- 【事務局】 1点目については、特に大きな意見は無く、この色で良いという意見をいただいている。2点目の庇については、どのような材料にするかは決まっていない。既製品か、新たに一から作るのかで変わってくるが、いただいた意見を基に、既存建物や新しく建てるもの、緑との調和等を考えるかたちで色彩を調整していくよう助言したい。
- 【委員】 バス停周りの庇が長いので、病院に来られる方がこの下を歩かれることを考えると、近い所で見えるため、色彩や素材は大事である。場合によっては景観の専門委員に見ていただくなどして、全体のコーディネートがしっかりされるようにしていただきたい。法やコスト的に可能であれば、屋根裏に木質系の素材を使うなど、色々なことが検討できる。温かみのある、ここを歩いていてあまり嫌な思いをしないものにしていただきたい。
- 【委員】 色々意見が出たが、今後の協議の中で検討していただき、解決できるので答申案の議論をしたい。

ウ 事務局説明

【事務局】 答申案に基づき説明。

エ 審議の概要

【委員】 この案を基に練っていきたい。書き加えることや言い回しを変えたほうがいいことがあれば承りたい。

【委員】 「将来東側施設が整備された際に」は、過去形ではなく「整備される際に」である。

【委員】 「既存樹木の保全に努めること」とあるが、既存をどう捉えるかについて若干不安がある。国分寺崖線に元々あった樹種ではないが、構内に植わっているものを保全すると読まれかねない。国分寺崖線に生育していた樹種という意味を強調したい。上手い言い方が思い付かないが、在来というのか。

【委員】 既存の意味を狭めすぎると、今あるものを全部伐採して、国分寺崖線にあった樹種に変えるということにもなる。

【委員】 これは「保全に努める」なので、在来から植わっていたものの保全となる。やりかえることではない。

【委員】 具体的にはどのように書き換えるか。

【委員】 「既存」を、それで通るか分からないが「在来種」とするか。

【委員】 「在来種を中心とした既存樹木の保全に努める」としたらいいのではないか。既存樹木は、在来種ではなくても大型のものを残していただきたい。この言い回しは残した方が良い。

【委員】 「また、在来種を中心とした」というのを一つ入れるのはどうか。

【委員】 在来種という言い方は正しいのか。

【事務局】 樹木の表現等は、市の公園緑地課に確認して言葉の選定をさせていただきたい。

【委員】 意図が上手く伝わるようにしていただきたい。

それでは修正内容の確認をする。「将来東側施設が整備された」の「た」を「る」に書き換える。「既存樹木」については、今あるものだけではなくて、国分寺崖線に元々あったものという意図も含まれるような表現に変えることで、専門部署に確認していただく。これをもって修正版を答申にしたい。

(2) 日程第2 その他

府中景観計画の改定の方向性について事務局より当日資料に基づき説明。

分倍河原駅周辺地区まちづくり検討会において交通計画について検討していることから、土地利用景観調整審査会の専門委員を派遣し、報告書が提出された。

次回審査会について、案件は都立府中高校の建替計画であり、5月下旬を目処にあらためて日程調整する。

以上、会議のてん末を記載してその相違ないことを証するため、ここに署名する。

会 長

野澤 康

委 員 (桑田委員)

桑 田 仁